

## 平成22年度 第2回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成22年6月3日(水) 午後2時00分～4時15分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学名誉教授〕  
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕  
浅井 良隆〔コンサルティングファースト・ドリーム〕  
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕  
松井 栄子〔三州足助公社〕

事務局

鈴木 辰吉〔豊田市産業部長〕  
畔柳 寿文〔豊田市産業部調整監〕  
太田 鍊治〔豊田市産業部商業観光課長〕  
清水 章〔豊田市商業観光課副主幹〕  
松澤 秀記〔豊田市産業部商業観光課係長〕  
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕

傍聴者

なし

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
  - (1) 商店街活性化計画について
    - ・豊田市駅前商業協同組合
  - (2) 商業活性化推進交付金 H22 年度事業計画について
    - ・豊田まちづくり株式会社
  - (3) がんばる商店街応援プランローリングについて
- 5 閉 会

## 【会議録（要約表記）】

### 1 開会

事務局より、平成22年度第2回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

### 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

### 3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

### 4 審議事項

#### (1) 商店街活性化計画について

##### ・豊田市駅前商業協同組合

豊田市駅前商業協同組合 吉村理事長より資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

#### 【主な質疑応答】

##### 委員

夜のまちから昼と夜のまちへの転換ということで良いか？どのような事業を考えているのか？

##### 駅 商

商店街の広場等で朝市、不足業種を補うようなマーケットなどを検討したい。居酒屋にもランチ営業をするよう打診していきたい。

##### 委員

チェーン店の居酒屋では本部の意向もあり、なかなか店長の一存では決められないことも多い。そこが商店街にとっても難しいところ。

##### 委員

5月30日に用事があり、中心市街地へ出掛けたところイベントを行っており、大変賑わっていたが、その情報を知らなかった。もっと多くの人に呼びかける情報提供方法も検討の必要があるのでは？

##### 駅 商

前日の新聞折込み、広報とよた、回覧板、ホームニュース等で周知した。ある程度定例化したいということでここ数年は5月最終日曜日に実施している。

##### 委員

朝市事業も定例的に開かれると良い。

##### 駅 商

食品スーパーが商店街にあり、民業圧迫を商店街がするわけにはいかなかったが、日曜定休にするということなので、その日に実現しやすくなった。市場の売上も落ちており、まちなかで一緒にやれないかという話も受けているため、何とか3年間で取り組み始めたい。

##### 委員

グランパスサポートショップとは？

【 商 販 】

現在、3店舗登録。試合の日に大きなフラッグを掲げ、案内している。グランパスでサポートショップステッカー作成中。試合に勝利で割引とファンクラブ会員証で割引の2本立て。

【 委 員 】

ホームページ製作について、良いものを作っても見てもらえないと意味がない。どのように周知するのか？

【 商 販 】

大手飲食店がメールマガジンを実施しているため、そこに商店街情報を入れてもらいたいと考えている。また、商店街としても定期的なメール発信を検討している。まちなか宣伝会議とも連携していきたい。

【 委 員 】

時間消費型の具体的事業とは？

【 商 販 】

再開発に合わせ、検討していきたい。

【 委 員 】

本事業の認定は妥当であると考えている。

【 事務局 】

商業は1年1年が勝負。再開発でどうせ壊すのだからではなく、壊す直前までしっかりがんばることが大事。

## (2) 商業活性化推進交付金 H22 年度事業計画について

### ・豊田まちづくり(株)

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

#### 【主な質疑応答】

【 委 員 】

大型店の魅力化及び売上を上げる実効性の高い施策を重点的に行わなくてはならない。

【 委 員 】

本事業の認定は妥当であると考えている。

## (3) がんばる商店街応援プランローリングについて

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

#### 【主な質疑応答】

【 委 員 】

がんばる者だけを救う制度とするのか、それ以外の者も対象とするのか？

【 事務局 】

商業者においては、当然がんばる気持ちを持っていることが大前提。現在の「「選択」と「集中」による魅力向上」に、買物弱者救済等の市民目線での制度拡充をしていくようなイメージを考えている。地域支援課が平成20年度に実施した過疎対策に関するアンケート結果によると、都市部の住民の約7割が過疎地域の住民が安心して住み続けられるような医療・福祉体制や生活環境の充実を図るべきとの回答をしており、そういった安心して生活していくための商業機能創出への支援については理解が得られると考えている。また、現在、豊田市では地域バスを走らせており、それに乗れば買物できる場所まで行くこ

とはできるようになっているが、そこまで移動できず、乗ることができない人を救っていく施策も検討していく必要があると考えている。

**委員**

商店は減る、住民は長生きする。過疎地域の小さな個店では資金力がなく、仕入れの力もない。そういった店が生き残っていくために、宅配等のサービスをして手数料を稼ぐ商売へシフトしていくことも考えられるかもしれない。また、65歳以上の高齢者の生きがいづくりとして、地域の宅配サービスや朝市の手伝いなど、地域の御用聞きみたいなことをボランティアで実施していただく施策のようなものも考えられる。

**委員**

豊田市は広大な地域を抱えている。地域の特色を活かし、既存の商店を活性化させていくことに重点を置くべき。住民にとって、昔から住んでいる地域で買物できる環境を整えていくことが大事。その上で、店まで送迎してもらえる仕組みができると良いのでは。

**委員**

本当に山奥の方は、福祉と連携するなどしないと、商店街だけでは対応しきれない部分もある。

**委員**

買物弱者の救済について、地域に店を存続させていく方法と、宅配サービス、移動販売などで救済していく方法がある。何を支援対象とするか検討しなければならない。また、当然ながら買物弱者と呼ばれる人がどのエリアにどの程度の数がいるのかを把握しておく必要がある。がんばる個店のネットワークによる魅力創出事業について、独立した個店が連携して魅力創出事業を実施することはもちろん、1つの空き店舗に商業者が複数人入り、事業を展開する場合においても支援ができると良いのでは。店舗があった場所というのは利便性が高かった場所であるため、再利用できる仕組みを考えると良いと思う。また、支援をする条件として、商店街組織への加入と地域貢献を義務付けていくことが大切。

**委員**

市民ニーズを把握するだけでなく、対応することが大事。そのデータを把握するための調査も、その結果をどう活かしていくかまで含め、補助対象としても良いのでは。また、新たな商業機能創出については、買物難民に特化したものではなく、地域住民対応しているかで判断しては。安全安心なまちづくり事業については、ハード整備だけを認めるのではなく、必ずソフト事業を絡めてPRさせることが大事。

**事務局**

今回の見直しで加える部分としては、地域貢献やコミュニティ形成について、大型店やチェーン店が商店街と一緒に取り組んでもらうことの義務付けや、買物に苦慮している方を含め、地域の課題を解決するための支援を、商店街組織がないところでも、個店の連携で実施できるようにするといった部分と考えている。

**委員**

国道沿線などの商店街組織に未加入の大型店やチェーン店が、市や商店街組織の事業に協力もせず、利益だけを得るようなことをさせないようガイドラインが必要。

## 事務局

商業振興条例を施行し、5年が経った。商業環境も変化してきているので、それに合わせた施策を検討していく必要がある。今までの議論の中にあったように、がんばる商店街への支援の集中は継続しつつ、新たな3つの課題に対応する施策を盛り込んでいく方向性で良いのではと考えている。1つ目は、組織を超えたがんばる個店のネットワークによる事業展開への支援の仕組みづくり。2つ目は、少子高齢化によるコミュニティ崩壊や買物弱者といった地域課題を解決するための商業視点からの支援の仕組みづくり。3つ目は、大型店やチェーン店に利益追求だけでなく、商店街への加入と地域貢献を求めていく仕組みづくり。ただ、地域課題の部分は福祉対策なのか、過疎対策なのかの整理は必要で、持続可能なコミュニティビジネスとして成り立つ部分を商業施策で応援するという整理で良いと思う。農商観光連携も商業施策の中で打ち出していければと思う。

## 5 その他（連絡事項）

今後の予定

平成22年度 第3回開催予定日 平成22年8月9日（木）15:00～

以上